

社会参画力育成指導実践研究事業 「令和6年度の取組みのまとめ」



大阪府教育庁市町村教育室
小中学校課

令和7年3月

<はじめに>

現在の社会は、「予測困難な時代」が到来しており、子どもたちには、変化する社会に主体的に関わり、課題を見つけ、解決していこうとする力が求められています。そこで、子どもたちの主体的に社会に参画する意識を醸成するために、大阪府では、以下のような取組みを推進することが必要だと考えています。

○児童・生徒が学級や学校の課題を見出し、よりよく解決するため話し合って合意形成を図るような活動を充実させること。

また主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うなど、学級活動や、児童会・生徒会・委員会活動等を通じて子どもの自主活動を推進すること。

○子どもたちがよりよい社会をめざし、身近な家族から、学校、地域へと、自分と社会との関わりを広げながら学習や経験を積み重ね、主体的に社会に参画する力の基盤が身につけられるよう、主権者教育の充実を図ること。

(令和7年度 市町村教育委員会に対する指導・助言事項
(大阪府作成) より抜粋)

このような取組みを進めるためには、各学校においてカリキュラム・マネジメントの実現を図ることが欠かせません。そのため、大阪府教育庁が作成した「**カリキュラム・マネジメントの手引き**」(令和4年度作成)を、本事業の実践研究校2校において活用し、令和5・6年度の2年間の事業として、主体的に社会に参画する力の育成をめざし、「社会参画力育成指導実践研究事業」を進めてきました。また、令和6年3月には、「令和5年度の取組みのまとめ」を作成し、ホームページ上で公開しました。

そして、令和6年度の実践研究校における実践を普及するため、「令和6年度の取組みのまとめ」として本資料を作成しました。各校の実態に応じて、是非ご活用ください。



(参考) 大阪府教育庁小中学校課ホームページ

○「令和3・4年度 これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究事業」

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/r0102karimane/index.html>

※上記URLからダウンロードできます。

○「社会参画力育成指導実践研究事業『令和5年度の取組みのまとめ』」

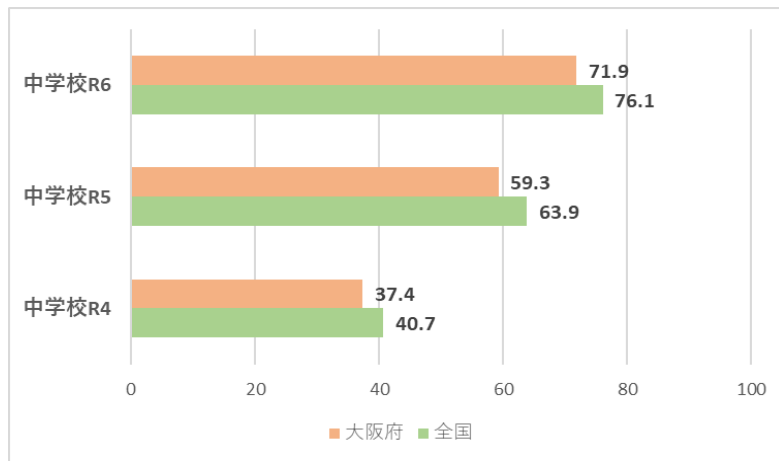
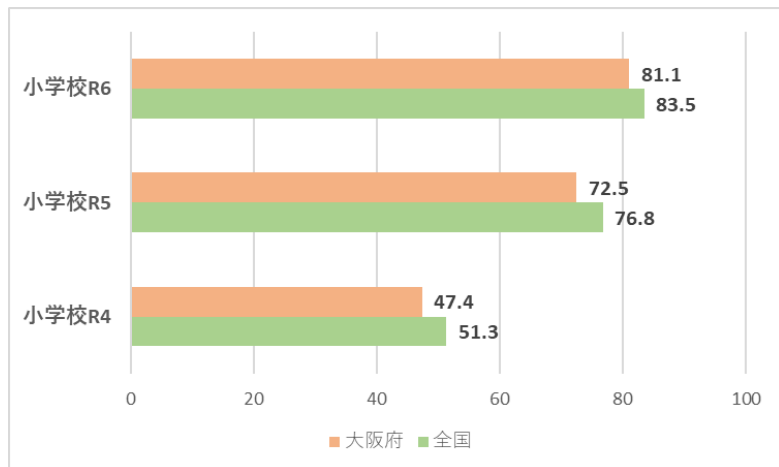
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/syakaisankaku/index.html>

※上記URLからダウンロードできます。

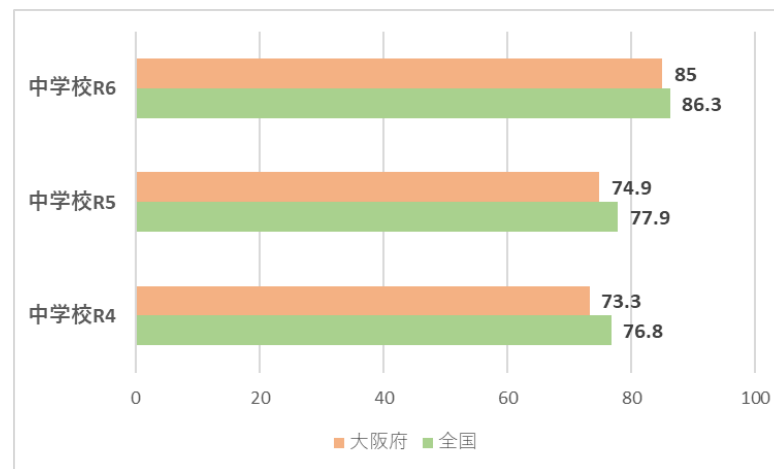
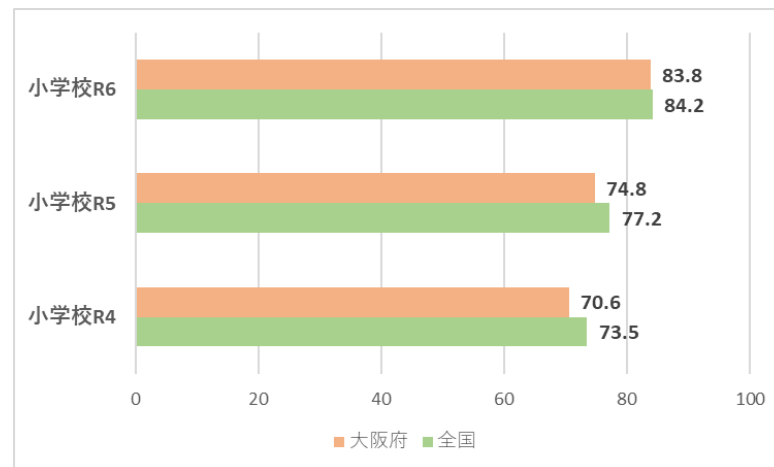


「大阪府の現状と課題」

地域や社会を良くするために、(R4) 何をすべきかを考えることがありますか
(R5・6) 何かしてみたいと思いますか



あなたの学級では、学級生活をよりよくするための学級会で話し合い、
互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



児童生徒が

- ◎「よりよい社会の実現を視野に社会の形成に主体的に参画しようとする力」
- ◎「課題の解決に向けて協働的に追求し合意を形成する力」に課題がある

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 結果より



「社会参画力育成指導実践研究事業」
を実施



©2014
大阪府もずやん

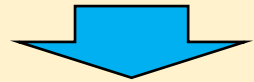
令和6年度の取組みの概要

<目的>

主体的に社会に参画するために必要となる資質・能力を育むため、実践研究校を指定し、カリキュラム・マネジメントの観点から教科等横断的な学習により、地域や社会の具体的な課題の解決に協働的に取り組むなど、実社会とのつながりを重視した学習の在り方についての実践研究を行う。

<大阪府>

令和5年度 「目的に沿ってカリキュラム・マネジメントの観点から教科等横断的な学習を推進」



令和5年度の取組みを踏まえ、主体的に社会に参画するために必要となる資質・能力を育むためには、学校全体で社会参画の力を意識したカリキュラム・マネジメントの実現を図ることが必要。

令和6年度 「学校全体で社会参画力を意識したカリキュラム・マネジメントの実現」

<各実践研究校>

交野市立第三中学校：（特別活動の取組みを軸として）

「『自治的な力』や『地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力』を高める」

田尻町立小学校：（社会科の学習を軸として）

「よりよい地域社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする力の育成」

社会参画力育成指導実践研究校連絡会

<概要> 社会参画力育成指導実践研究事業の実践研究校で取り組んできた実践の交流と協議。また、龍谷大学 中本 和彦 教授より指導助言をいただき、今後の実践研究校における取組みの充実を図った。

<日程> 令和6年度 第1回 令和6年 7月31日（水）

第2回 令和6年10月31日（金）

<講師> 龍谷大学 法学部 中本 和彦 教授



令和6年度の取組みの概要

取組み内容の発信と成果の普及

主体的な社会参画力育成に向けたカリキュラム・マネジメント推進研修 ～社会科・特別活動を中心とした取組みを通して～

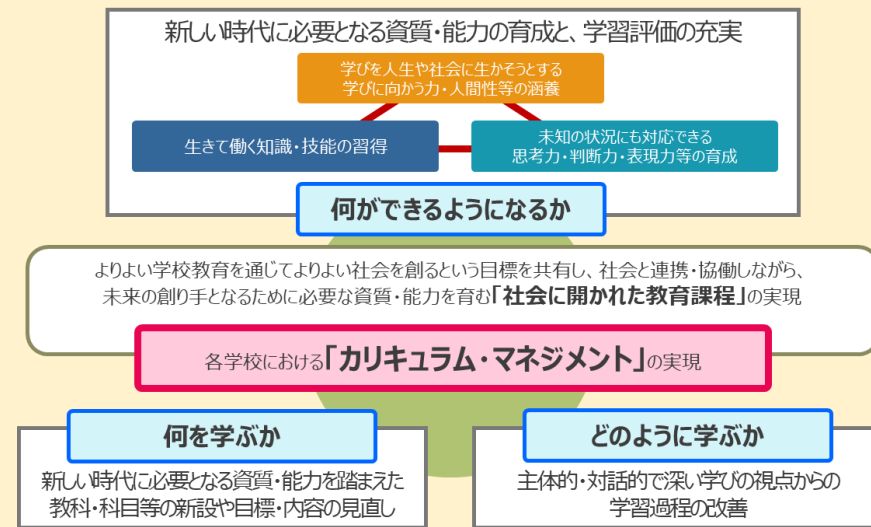
＜趣 旨＞ 児童生徒が主体的に社会に参画するために必要な資質・能力を育むため、学校全体で社会参画力を意識したカリキュラム・マネジメントの実現に向けて、令和6年度社会参画力育成指導実践研究事業実践研究校における「地域や社会と連携して課題解決に取り組む探究的な学習」の取組み報告や、「カリキュラム・マネジメントの充実」に向けた講演等を通して、府域の学校における取組みの充実を図る。

＜開催日＞ 令和7年2月19日（水）リアルタイム開催
2月28日（金）～3月21日（金）オンデマンド配信

＜テーマ＞「主体的に社会に参画するための力を意識したカリキュラム・マネジメントの実現に向けて」

＜講 師＞ 田村 知子 教授（大阪教育大学 大学院 連合教職実践研究科）

＜概 要＞ 小学校、中学校、義務教育学校の教職員、市町村教育委員会指導主事等を対象に、児童生徒が地域社会づくりに向けて参画していく意識を持ち、諸課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育むため実践した、実践研究校の2年間を通じた取組みの報告と質疑応答を行い、大阪教育大学 田村 知子教授からの「カリキュラム・マネジメントの考え方を有効活用するために」をテーマとしたご講演を通して、今後の府内各校におけるカリキュラム・マネジメントの推進を図った。



【参加者の声】

- ・めざす子どもの姿に向かうためにカリキュラム・マネジメントを行い、校内の教育活動を充実させることが必要不可欠であるということを再確認できました。
- ・社会参画という視点を持って、学校教育目標の実現に向けた教育課程を考えていく必要があると思いました。また、「学びのつながり」だけでなく、地域とのつながりなどの「人と人のつながり」を大切にしたい取り組みを行えるよう、先生方に伝えていきたい。
- ・取組みを通じて、子どもたちが「自分自身の行動で社会を変えることができる」と自覚できることが大切だと感じました。

交野市立第三中学校の取組み

テーマ「自治的な力」や「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高める

＜令和6年度の取組み実施に向けて＞

○令和5年度の取組みの成果と課題

- ・特別活動を軸として、「自治的な力」や「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高めるため、生徒会活動を通した取組み、勤労生産・奉仕的行事を通した取組みを実践の柱として取り組むことができた。
- ・校内アンケート「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答の割合が向上（83.4%→94.9%）しており、地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力が高まったと考えられる。
- ・話し合い活動の中で出た否定的な意見を、合意形成の際、建設的に役立てることができなかった。
- ・特別活動の取組みと他の教科等の学習の関連について整理しきれなかった。

○令和6年度の取組み

- ・生徒会活動や学級活動を通した取組みにおいて、学校や学級における生活をよりよくするための課題や改善点を生徒が主体的に見出し、課題を解決するために話し合いをする機会を設定。
- ・研修推進委員会を立ち上げ、協力体制のもと、学校全体の取組みとして進める。

＜概要＞

第3学年の生徒を実践研究の対象とし、特別活動を軸として、よりよい学級・学校の実現に向けて、生徒がさまざまな課題を主体的に見出し、その解決に向け、話し合いを通して合意形成を図ろうとする自治的な力や、社会の形成に主体的に参画しようとする力を高める取組みを行う。また、学級や学校生活、自分たちが住んでいる地域をよりよくするため、生徒が互いの考えを大切にしながら、主体的に考え行動し、課題解決ができるよう校内での学習活動だけではなく、地域の企業と連携・協働した学習活動に取り組む。

＜2年目（令和6年度）の実践内容＞

特別活動を軸として、「自治的な力」を高めるため、生徒総会や体育祭に向けての話し合い活動を中心とした生徒会活動や、「学校の決まり」について考えるルールメイキングに取り組んだ。また、「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高めるため、クリーンアップ作戦をはじめとした勤労生産・奉仕的行事に取り組んだ。

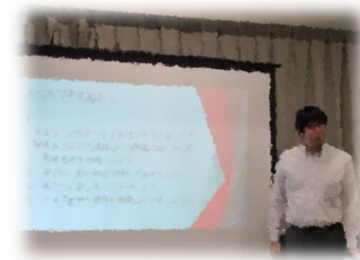
特別活動では、話し合い等を通して、合意形成を図る際に大切な「他者と協働して取り組むことの大切さを理解する力」や「意見の違いや相手の立場を理解する力」を培い、教科等の学習においてそれらの力を生かせるようにした。さらに、教科等の学習で学んだことや育んだ力を特別活動において生かすことができるように、特別活動と教科等を相互に関連させ、つけない力を高めるための工夫を行った。

＜交野市立第三中学校＞

研究推進委員会
渉外・企画・普及促進・会計
取組の成果の検証と課題の考察

＜外部機関＞

・ルラシオンデュークールアミエル（洋菓子店）
・株式会社 Learn More
・大阪弁護士会 法教育委員会
・三中50周年記念事業実行委員会



【特別活動】

・学級活動
・生徒会活動
・学校行事

相互に関連

【教科等】

・美術科 ・国語科
・外国語科 ・社会科
・総合的な学習の時間等

大きく2つの実践

● 学校への社会参画に関する実践
→自治的な力を高める

● 地域への社会参画に関する実践

→地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて社会の形成に主体的に参画しようとする力を高める

交野市立第三中学校の取組み

重点的な取組みの内容

時間	一連の活動と他教科との関連	
	内容項目・学習活動	関連付けた他教科等
1時間	学級活動（１）ア 生徒総会に向けて	
1時間	生徒会活動 生徒総会	
1時間	学級活動（１）ウ 修学旅行に向けて	
5時間	学級活動（１）ウ 体育祭に向けて	
2時間	学級活動（１）ウ 合唱コンクールに向けて	
3時間	学校行事 勤労生産・奉仕的行事	社会科
3時間	学級活動（１）ア 学校生活の決まりについて考える	
11時間	学校行事 勤労生産・奉仕的行事	総合的な学習の時間

＜第１時＞
大阪弁護士会法教育委員会 弁護士による講演

※代議員に対してポイントの説明

＜第２時＞
現状「学校生活の決まり」について各学級において話し合う

※代議員・生徒会執行部の話し合い
※生徒会執行部と教員の話し合い
※教員の話し合い

⇒上記の過程を経て「学校生活の決まり」の変更が可能であると判断した場合は、各学級に「学校生活の決まり」の修正案を提案する。

＜第３時＞
提案された「学校生活の決まり」の修正案について各学級において話し合う

※生徒提案の「学校生活の決まり」の修正案については、総合的に検討・判断する。
※修正案について、学級数の過半数の賛成があれば変更する。
※修正案への変更は、原則次年度以降とする。



「学校生活の決まり」について考えようの授業の概要

＜概要＞

講師による講演から「学校生活の決まり」の意義・役割について考えた。その後、よりよく学校生活を過ごすことができるように、現状「学校生活の決まり」について学級で決まりの修正の必要の有無も含め話し合った。生徒間で協働し合い、合意形成を図り、意見をまとめた。

＜指導上の工夫＞

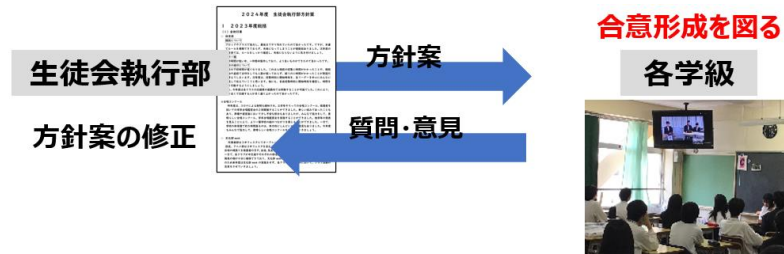
○学校生活の充実と向上に参画することを促す取組み

- ・「学校生活の決まり」を資料として扱い、主体的に学校へ社会参画することをねらいとした。
- ・「学校生活の決まり」について話し合う前に、有識者を招聘し、「決まり」についての講演を実施し、生徒の「決まり」の意義に関する知識を深めた。
- ・学級活動で話し合い活動をする際は、事前に代議員会を実施し、合意形成（意見を出し合う・くらべ合う・まとめる）の観点や多様な意見を生かして、他者と協働して取り組むことの大切さについて指導した。
- ・「個人⇒班⇒学級」の過程で話し合い活動を実施し、合意形成を図った。

○専門家や関係諸機関等との連携・協働
大阪弁護士会 法教育委員会 弁護士

成果

- ・実践の結果、生徒の感想文からは「（決まりについての）メリット・デメリットをしっかりと考えて、どうしたらみんなが納得できるのかを考えたことで、よりよい意見がうまれたことがよかったと思いました。」「話し合いをすることで、1つの意見ができあがっていく感覚を身に付けた。」などの感想があり、生徒自身が合意形成を図る力を意識して取り組むことができた。
- ・校内アンケート「話し合い活動において、意見の違いや多様性を認め合い、集団としての考えをまとめたり決めたりする活動に取り組むことができているか。」の肯定的な回答の割合は97%となり、生徒の合意形成を図る力を高めることができた。



田尻町立小学校の取組み

テーマ「よりよい地域社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする力の育成」

<令和6年度の取組み実施に向けて>

○令和5年度の取組みの成果と課題

- ・課題解決に向けて自分の考えをもち、話し合いの際に自分の意見を述べるができる児童が増え、議論が活性化する場面が見られるようになった。
- ・校内アンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の肯定的な回答の割合が向上（77%→97%）しており、児童の社会参画意識が高まった。
- ・具体的な根拠をもって自分なりの考えをもつことが難しい児童も少なからずおり、児童が自ら考え、判断し、意欲的に行動できるような指導の工夫が必要である。

○令和6年度の取組み

- ・社会科の授業の中で思考し、議論を重ね、よりよい社会について主体的に考えられる授業づくりを推進する。
- ・教科等横断的な学習の充実のための指導計画の立案

<概要>

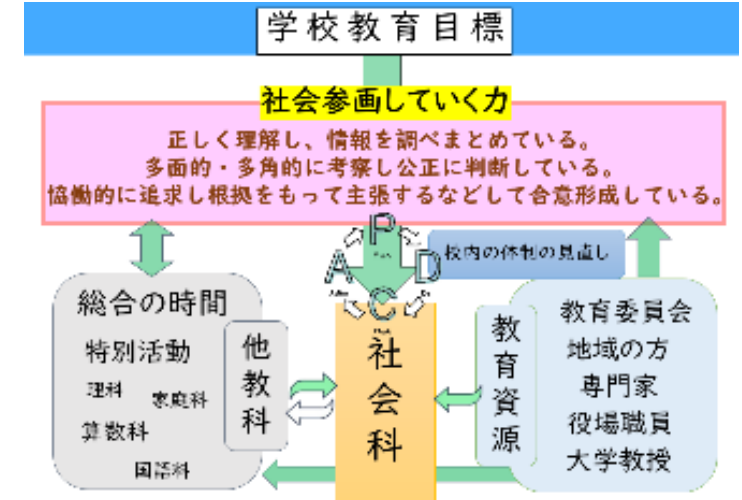
第6学年の児童を実践研究の対象とし、社会科の学習を軸として、よりよい地域社会の実現をめざし、児童が課題に対して主体的に解決しようとする力を高める取組みを行う。

日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国の政治のしくみについての単元学習を踏まえ、地域の課題解決のために行われてきた施策と結び付けた学習を通して、児童が地域の状況を理解し、身近な課題について根拠をもって議論する中で、よりよい社会をつくる意識を高める取組みとしていく。また、税務署職員や役場職員の方々と連携した取組みを実践する。

<2年目（令和6年度）の実践内容>

政治→歴史→国際という学習の流れの中で共通するキーワードを設定し、「だれの願い」、「どのような予算」、「どのような話し合いの場」、「根拠となる法律」の4観点に着目して各単元をまとめることで、1年間を通じて「よりよい社会」について考える機会をもつことができた。

また、議論をする際には、その考えが実現可能なものか、他者の考えに寄り添って考えたものか、吟味しながら進めた。「住民の願いを実現する政治」では公共施設ができるまでの人の働きを学び、それを生かして総合的な学習の時間において、実際に住民の願いが形になっていくまでの経緯を役場職員から聞き取ったことで、自分たちの行動によって地域社会を変えていくことができることを実感できた。



	誰の願い(主催・中心)	話し合いの場	どんな予算(お金・税)	どんな法律
縄文	×	○集会所	○狩り物の交換	×
弥生	○卑弥呼	○主祭殿	○米	×
古墳	○大王・豪族	○大和朝廷	○米・労働	×
飛鳥	○天皇・豪族	○冠位十二階に選抜される	○税(租・調・庸)	○大宝律令
奈良	○天皇・貴族	○平城京	○米・布	○律令制
平安	○貴族	○平安京	○年貢	○律令制
鎌倉	○武士	○鎌倉	○年貢	○御成敗式目
室町	○武士	○室町幕府	○年貢	○御成敗式目
安土桃山	○武士(商人・農民)	○豊臣秀吉による	○年貢	○分国法
江戸	○武士	○江戸幕府	○年貢	○武家諸法度

田尻町立小学校の取組み

重点的な取組みの内容

時間	単元の指導計画 「住民の願いを実現する政治のしくみ」	
	社会科	関連付けた他教科等
1	わたしたちの願いと たじりっち広場	総合的な学習の時間
2	町役場の働き	総合的な学習の時間
3	町議会の働き	特別活動 総合的な学習の時間
4	税金の働き	総合的な学習の時間
5	「政治のしくみ」について まとめる・ひろげる・深める	総合的な学習の時間

住民の願いを実現する政治



社会科 第5時

「政治のしくみについてまとめる・ひろげる・深める」授業の概要

<概要>

複数の地方公共団体の「住民の願いを実現する政治」の取組を資料を用いて調べ、比較・検討し学びを定着させ、深めていく。

<指導上の工夫>

○社会的事象を自分事として捉え、考えさせる教材や学習活動
田尻町の政治のしくみを学習した上で、資料を用いて他市と比較・検討したことで共通点や差異に気づき、なぜそうなっているのか自分なりの考えをもつことができ、全国の市区町村が日本国憲法を根拠とする国民主権のもと政治を行っていることを理解することができた。

○社会科と他教科等との連携

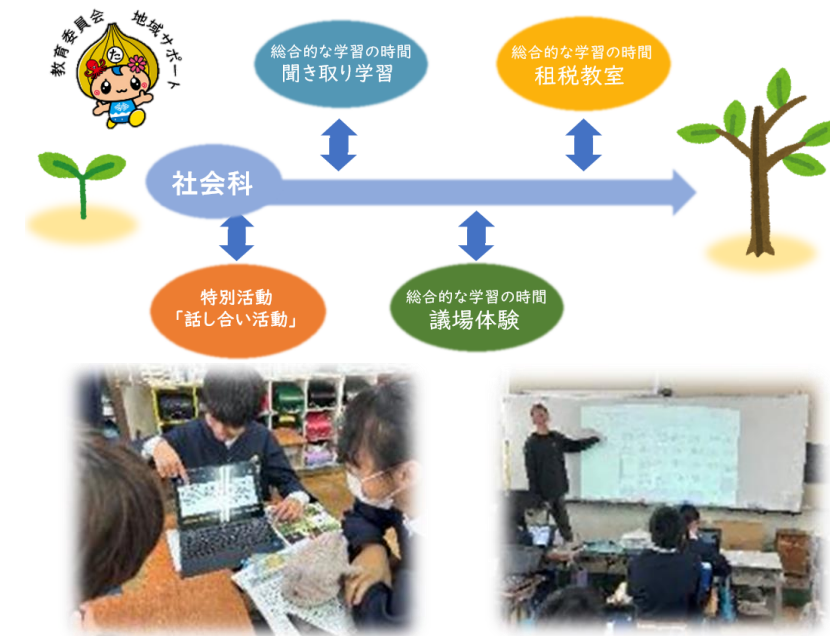
総合的な学習の時間で、町の大型遊具施設である「たじりっち広場」の企画から完成までの話を聞くことができ、質疑応答も行った結果、誰の願いで建設することになり、どんな場所でどのような話し合いを行ったかを知り、予算や関連する法律についても学習した。また、国などの補助金や助成金を活用していることや管理維持をしていくための費用などについても学習した。

○専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・田尻町役場都市みどり課と連携し、たじりっち広場の完成までの取組みについて学習した。
- ・田尻町議会事務局と連携し、議会体験を行った。たじりっち広場の完成までに行われた議論をもとに台本を作成し、子どもたちが実際に議論を体験した。

成果

- ・議場体験では実際にたじりっち広場建設のための話し合いを模擬体験することで、田尻町の政治のしくみに対して理解を深めることができた。
- ・本単元の学習を通して、児童が「他の地域の政治のしくみはどうなっているのか？」という疑問を持ち、国の政治の働きに対して興味・関心を示し、よりよい社会について主体的に考える姿や自信をもって自分の意見を話し、他者の意見を聞いて、考える姿が見られた。
- ・政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組みを捉え、国民生活における政治の働きや仕組みを考え、表現することができた。



2年間の取組みの成果

交野市立第三中学校

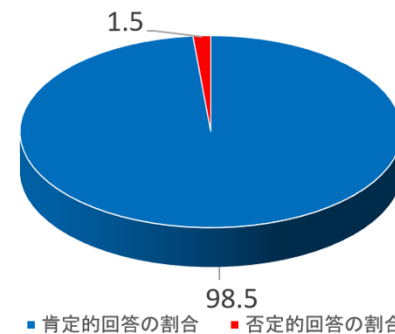
学校独自で実施している「令和6年度 社会参画についてのアンケート」において、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問項目の生徒の肯定的な回答の割合は、昨年度の92.4%から98.5%に上昇し、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問項目の生徒の肯定的な回答の割合は、昨年度の83.4%から94.7%に上昇した。

年間の取組みを通じて、生徒一人ひとりが、集団（社会）をよりよくするために何ができるかを主体的に考え、行動する力を高めることができた。

また、学校への社会参画、地域への社会参画という経験を通して、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題について社会の構成員の一人として主体的に解決していこうとする主権者としての資質・能力を高めることができた。

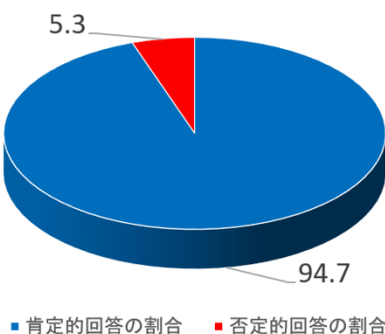
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。
(令和6年度 学校独自のアンケート)

**98.5%の
肯定的回答の割合**



地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
(令和6年度 学校独自のアンケート)

**94.7%の
肯定的回答の割合**

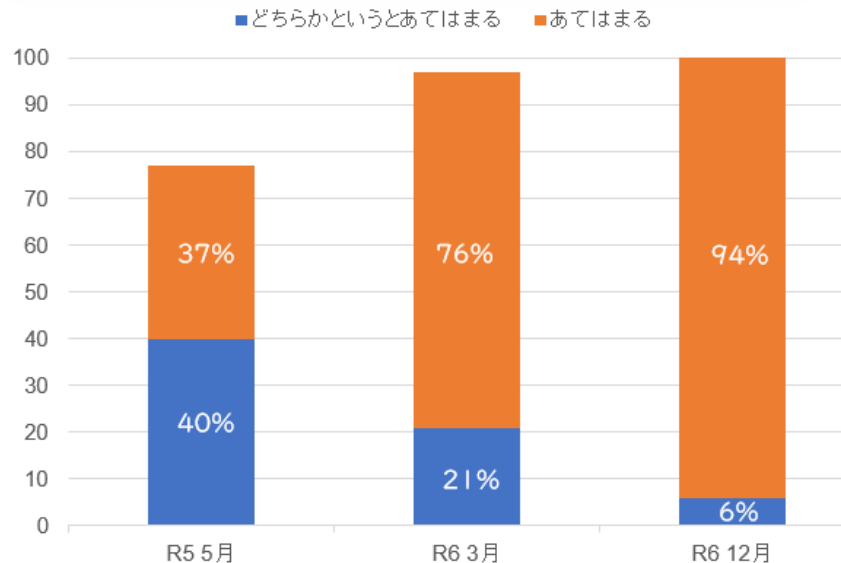


田尻町立小学校

学校独自で令和6年12月に実施した生活アンケートの項目「地域や社会をよくするために何かできることはないかと考えることがある」では100%の児童が肯定的回答（「あてはまる」が、昨年度の37%から94%に上昇）に増加した。

社会科を軸として総合的な学習や他教科との関わりによって学習を深めていくことによって、大きな成果が見られた。

今後、「よりよい地域社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする子ども」を学校全体で育てるため、教員同士の綿密な情報共有や、年間計画を立て、系統立った取組みを推進するための校内体制を確立していく。



「地域や社会をよくするために何かできることはないかと考えることがある」